深浦町合併20周年記念プレイベント
令和6年度 深浦町生涯学習フォーラム

小説「サンショウウオの四十九日」で第171回芥川賞を受賞した作家で医師の朝比奈秋さんが3月15日、町民文化ホールで「深浦町と私」と題して講演会を行いました。

講演会は、町教育委員会主催の令和6年度深浦町生涯学習フォーラムで、深浦町の合併20周年プレイベントとして開催され、町内外の約200人が朝比奈さんの講演に耳を傾けました。

朝比奈秋さん

朝比奈さんは、十数年前に当町の関診療所に1か月勤務した経験があり、デビュー作の「塩の道」は、関診療所に勤務していたときの体験や経験を基に描かれた作品で、この日の講演会は町内の読み聞かせボランティアによる「塩の道」の朗読で開幕しました。

講演の冒頭、朝比奈さんは「初めましてというかご無沙汰しています」とはにかみながらあいさつ。続いて「深浦での暮らしで嫌な思いをしたことが一つもなかった。1か月いただけだが、すごく影響力があった。小説家としてはだいぶ得をしたと思う。今後、深浦町シリーズとしてこの町を舞台に書くこともあるし、あるいはまったく違う物語として書くこともあると思う」と、深浦町に赴任した当時のエピソードや「塩の道」の執筆秘話、小説家を志した理由などについてお話ししていただきました。

講演を聞いた根上恵二朗さん（18歳）は「思い込みなどに気が付けることの大切さが学べた。ユーモアがあって聞きやすかった」と話しました。

朝比奈さんは講演を終えて「温かく迎えていただいて嬉しかった。作家として原点の町になるので、戻ってきたという感じもしたし、ここからまたこの町を舞台にしていくつかの小説を書いていくんだろうなという気もして嬉しかった」と感想を語りました。

講演会後はサイン会も開かれ、多くの町民や文学ファンが朝比奈さんへ講演の感想などの言葉をかけながら書籍へサインをもらい、朝比奈さんも笑顔で応えていました。

サイン会で笑顔で言葉を交わす朝比奈さん

「塩の道」を朗読する読み聞かせボランティア有志

地域おこし協力隊活動報告会

3年間の活動を報告する浪岡さん

3月1日、令和4年4月から地域おこし協力隊として活動していた浪岡隊員の3年間の活動報告会が、町民文化ホールで開催されました。浪岡隊員は4月10日で任期満了を迎えたため、今までの活動の成果について会場に集まった町民に報告しました。

報告会の冒頭、「今日、うどんを食べに来た人はいますか？」と来場者に問いかけ、会場の笑いを誘い、場の雰囲気を和ませながら3年間の活動を報告。深浦町へ地域おこし協力隊として着任するまでの経緯や、着任してから行ってきた活動を1年ごとに振り返りました。

浪岡隊員は、1年目は日本一のキャンプファイヤー、2年目はクラフト展、3年目は海岸清掃後に流木で焚火を楽しむ団体「F・F・焚火人」の創設や熱気球搭乗体験会の開催と、毎年新しい取り組みにチャレンジしてきました。

浪岡隊員は報告会の最後に「充実した3年間だった。これからも深浦町に定住する予定で、新しいスタートを切るために準備している。何とかして深浦町に恩返しをしたい」と活動を振り返るとともに、任期後の活動への意気込みを語りました。

報告を受けた平沢町長は「これほど地域に受け入れられた移住者はなかなかないと感じている。一生懸命、地域のために何かをやろうとしたことが結果として結びついたと思う。引き続き、深浦町のために頑張っていただきたい」と講評を述べました。

報告会終了後、今年も会場では浪岡隊員指導のもと、役場職員が作った手打ちうどんが振る舞われ、来場した方々は美味しいうどんを味わっていました。

報告会の様子

活動記録を見る来場者

振る舞われたうどん

浪岡さんの打ったうどんを楽しむ来場者たち